

朝は鳥の鳴き声で、自然と目が覚めます。洗濯した衣類は、乾燥した空気のお陰もあり、ほんの数時間で乾きます。カットフルーツにはよくチリソースをかけて食べるのがメキシコ流です。すれ違う時には、どんな人にもこんにちとは、笑顔であいさつを交わします。

メキシコに住んで一か月が経ちました。振り返れば一日一日が本当に濃く、今日まであつという間に過ぎていきました。日本の真反対にあるここでは、当然のことながら目に映るもの、手に触れるものすべてが初めての体験ばかりです。新しい環境に慣れるまで多少時間はかかりました。ですが、今では自分の生活リズムも掴めるようになり、毎日楽しく過ごすことが出来ています。

大学では周りの助けも借りながら、今は辞書を常に片手に携えて実習と座学を交互に行っています。言葉の壁は、やはり簡単に超えることは難しく、今は必死に食らいついては学んでの繰り返しです。日本とは授業の雰囲気も全く異なり、一方的な講義を受けるスタイルではありません。学生はとても主体的で、目の前の問題に真剣に取り組みます。常に学生と先生が、意見を交換しあいながら共に共有していく授業は、大変新鮮で学ばされることばかりです。同時に、私たち日本の学生も見習わなければいけないと痛感しています。本来、自主的に行いたいと思うことで勉強をするものであって、そのことが普通であるとするなら

ば、日本の学生の在り方は考えるべきところがあるのではないかと強く感じました。

私は、メキシコをはじめ中南米諸国が、今後の農業に大きく影響を与えるキーとなる地域であると強く感じています。日本でもおなじみのアボカドのおよそ九割は、メキシコ産とされています。面する太平洋では、豊富な海の幸を獲ることが出来ます。広大な土地には、乾燥地帯から熱帯雨林に至るまで様々な顔を持つ風土や気候、積み重ねられてきた食文化、と、どれをとっても本当に恵まれた環境を保有しています。今ここでしか学べないこと吸収したいことを、一瞬も無駄にせずに過ごせるよう活動していきたいです。

国が異なれば言葉も、肌の色も、文化も常識も、大きく変わります。異なる価値観を自分の中に吸収していくのは、簡単なことではありません。慣れを感じる今でも、まだまだ苦労する場面が沢山あります。「メキシコにはかつて植民地化された歴史があって、ふとした時に、自分はどこの誰なのかと考える時があるよ。」大学の友人が会話の中で何気なく口にした、自分の中に残っている言葉です。そしてこの言葉を、自分がメキシコで生活する以上何度も考えていくことになるのだろうと感じています。州によってそれぞれが持つ文化も、顔や背丈、容姿も、踊りも、様々です。それぞれが歩み積み重ねてきた歴史も異なります。少し自分で返答を考えてみましたが、当たり障りのない返答でしか、返すことが出来なかったのを覚えています。私は日本で生まれ育ってきたので、彼らと同じ土地で生きてきたわけはありません。ここでの生活の中で、理不尽さを感じることや、上手くいかないこと、どうしても理解が及ばないような出来事を何度も経験してきました。ですが、歩んできた歴史を

はじめ、見てきたもの経験してきたものも、大きく異なります。留学では勉強だけでなく、違いを受け入れることも必要です。この一年間の私自身の成長に向けた、農業とはまた異なる、大切な経験だと考えています。私の留學生活は、まだ始まってわずか一か月です。そしてけれど一か月です。自分のペースで少しずつ、そして確実に、日々懸命に生きながら、自分なりの価値観を形成していくことができるよう努力していきたいと思います。

最後になりましたが、常に身の安全や健康を第一に考え、存分に今自分のできる精一杯の努力をして一年後帰国できるように頑張りたいです。応援の程、よろしく申し上げます。